「全鍍連」 ２０２２年 １１月号 理事長のよこがお

群馬県鍍金工業組合 藤間 一夫 (藤間精練㈱ 代表取締役社長)

「ウィズコロナの組合活動」

新型コロナウィルスの流行が中国武漢で発生し、間もなく３年の月日が経過しようとしています。はやく元の暮らしに戻りたいと願うばかりですが、ご承知のとおり、そう容易いものではなさそうです。ワクチンを複数回ブースター接種しても、変異を繰り返すウィルスとの長い戦いが続きそうです。ポストコロナはいつになったら訪れるのでしょうか？様々な行動制限があり、旅行や対面式の会議が減り、その後の懇親会の機会も減り、情報交換や雑談も少なくなりました。呑んべーの私としては、酒席の場が少なくなってしまった事が何より残念で仕方ありません。

喪失したものも多いですが、創出されたものもあります。ZOOM 等を使用する WEB 会議が瞬く間に普及し、ハイブリッド方式は利便性が高く合理的です。全鍍連の会議で一早く導入して頂き、地方から参加する身として大変有り難く思っております。

未だコロナ終息が見えない中ですが、いつまでも停滞している訳には行きません。群馬組合では、以下のとおり、少しずつ行事を再開しております。

① ５月２０日（金）伊香保温泉ホテル天坊にて第６４回定時総会開催。その後、懇親会実施。希望者は宿泊。

② ６月２２日（水）理事会開催（ハイブリッド方式を導入）。

③ ３支部会（中毛支部、東毛支部、西毛支部）行政担当者による講演後、懇親会を実施。

④ ７月２２日（金）排水自主巡回指導（館林市の山下金属化工殿）行政３名立会のもと役員４名にて実施。

⑤ ７月２３日（土）技能検定実技試験実施（三郷鍍金工業殿にて）組合員６名が検定員として協力。

⑥ ９月１０日（土）、１１日（日）毒物劇物取扱者試験の事前講習会開催。

半年が経過し上記行事を実施することができました。

ようやく第７波がピークアウトしつつありますが、コロナ対策と社会経済活動の両立が大きな課題です。３月から水際対策が徐々に緩和され、実習生の入国が再開し人手不足解消の一助となりましたが、半導体不足や部品の供給制約による生産調整、円安、資源高、電気代高騰と問題山積です。ロシア、ウクライナ戦争の終結は見通しが立たず、米中対立、経済安全保障も大きな懸念事項です。国際情勢は混沌とし、民主主義 VS.権威主義の新たな局面に突入したようです。不透明な時代を生き残るため、組合が果たす役割は益々大きくなると思います。苅宿会長を始め役員の皆

様、事務局のご指導ご鞭撻を賜ります様宜しくお願いします。

総会後の懇親会

毒物劇物取扱試験事前講習会